

ぶどう通信

第 25 号

平成 14 年 12 月 4 日

また新たな年もよろしく願
いたします。

薬の飲み方

あゝあ、もう年末です。師走とはよく言ったもので、なぜかせわしない気分になってしまいます。今年は特に、暑い夏から一気に寒くなってしまふという急展開でしたので、秋を満喫することなくここまで来てしまったような気がします。

皆さんは年末年始をどのように過ごされますか？ご家族が集まっただけやかに過ごされる方も多いでしょうね。我が家も恒例によって広島帰省です。新幹線「のぞみ」だと四時間かからないのですが、やっぱり遠いです。

さてさて、この冬は四年ぶりのインフルエンザの当たり年になると予測されています。年末年始も体調管理にはくれぐれもご留意ください。

今年の六月、ある学会で在宅ケアを受けている方の薬に関する調査を行い発表しました。と言つのは、僕たちの領域でも関心の高い「飲み込みの障害」のある方がどのように薬を飲んでいるのかを知りたかったのです。

「飲み込みの障害」は、脳卒中の後遺症や痴呆の影響でも発現しますが、脳卒中（脳出血や脳梗塞など）の後遺症として生じることもあります。いろんな症状がありますが、代表的なものは「お茶を飲むとゴホゴホとむせてしまう」といったものです。ご経験ありませんか？

さて、学会発表用に調べたデータでは、ほとんどの人が数種類から十

数種類の薬を飲んでいることが分かりました。中には、飲みにくい薬はつぶしてもらって飲んでる方もいました。

さて、先日、ある薬剤師さんと話をしたら、「医者から、薬を砕いて処方してほしいと言われるけど、そうすると効力が変わる薬もあるのよ。」と言っていました。また、最近、業者によって薬を砕いた時の効能を添付しているものもあるそうなのですが、何種類かの薬を飲み合わせた時の効能は誰にもわからないといっていました。

もちろん、薬が飲めなくては意味がありませんが、可能な限り原形で飲むほうがいいみたいですね。